

津ライスニュース 令和8年産第2報

令和8年6月25日

津地域農業改良普及センター 電話：059-223-5103

気象経過（6月20日まで）※平年はH28～R7年までの平均値

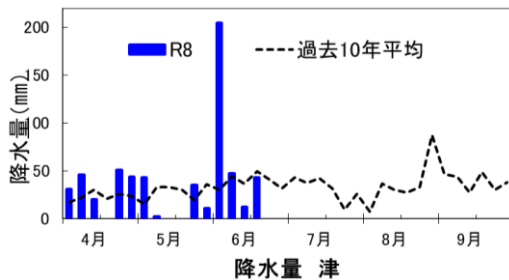
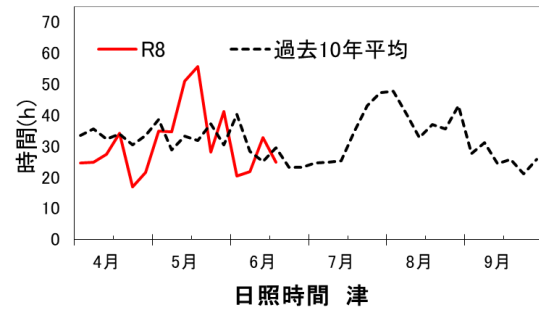
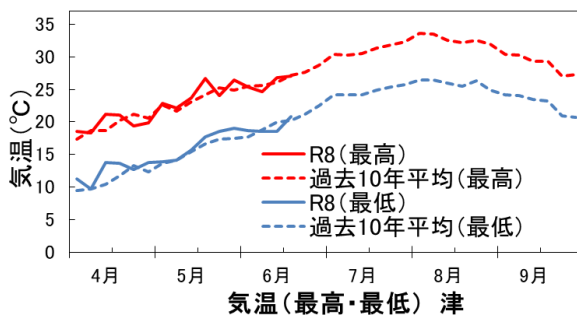
4月以降、天気は数日の周期で変化することが多くなっています。また、名古屋地方気象台は、6月7日東海地方が梅雨入りしたと発表しました。

<気温>

4月以降、ほぼ平年並の気温で推移しています。5月中旬には、30℃を超える日が数日ありました。

<日照時間>

6月は台風の影響があったものの平年並となっています。



<降水量>

4月より定期的な降雨がありました。6月初旬には、台風6号（チャンミー）による記録的な大雨があり、平年の6月の総雨量と同程度の降雨をもたらしました。

<向こう3か月予報 東海地方（7月～9月）名古屋地方気象台>

気温は、期間の前半を中心に暖かい空気に覆われやすいため、高いでしょう。降水量はほぼ平年並の見込みです。

生育の概況

現在、中干し途中または中干し後の入水管理が実施されている状況です。概ね順調に生育が進んでおり、茎数が十分に確保されているようにみられます。

中干しは、ほ場に軽くヒビが入り足跡が残る程度で十分です。土が白くなり、大きなヒビが入ってしまうほど強く中干しすると、根を痛める原因となります。地域によって水利事情は異なりますが、水が利用できる場合は入水しましょう。

また、4月中下旬植えのほ場では幼穂形成期（葉鞘内で穂の形成がスタートする段階）に入っています。葉先が立つ草姿が特徴です。収量を獲るために、幼穂形成期には水を入れ自然に落水する間断灌水に努め、水分と酸素を適度に土壌に入れましょう。



幼穂形成期（左）と幼穂（右）

病害虫の発生状況と対策

<いもち病>

いもち病菌の感染適温は24℃であり、葉身の「ぬれ」時間が長いほど感染量が多くなるとされています。また、林付近の風通しの悪いほ場では発生が多くなる傾向があります。

三重県病害虫防除所によると、葉いもちの発生量はやや多いと予報されています。現在、葉いもちの症状がある場合は、その病斑が穂いもちの感染源になりますので、薬剤散布による防除が効果的です。

葉いもちの病斑→



<カメムシ対策の徹底>

収量低下の要因は様々ありますが、高温やカメムシ類による不稔が特に問題となっています。三重県病害虫防除所によると、現状の発生量は平年並と考えられますが、今後の気象条件を考慮して、発生量はやや多と予想されます。

○防除対策1

多くのカメムシ類は畦畔などのイネ科雑草（ネズミムギやメヒシバ）を住処にして増殖します。イネカメムシは畦畔を経由せず、水田に直接飛び込むとされていますが、他の斑点米カメムシ類の被害を防止するためにも、**出穂2週間頃前（少なくとも10日前）までに畦畔を刈り払う**等耕種的防除が重要です。



イネ科雑草のネズミムギ

○防除対策2

斑点米カメムシ類と、それらに含まれるイネカメムシやクモヘリカメムシなどの不稔を引き起こすカメムシ類を防除するには、**出穂期**に薬剤散布を実施し、2回目は約10日後に異なる有効成分が含まれる薬剤を散布しましょう。

管内水稻基準田の平年出穂期（R3～R7年の平均）

品種	調査地点	移植日	出穂期
	殿村・安東	4月14日	7月12日
コシヒカリ	安濃	4月26日	7月18日
	白山	4月29日	7月19日

水稻病害虫発生予測システムの出穂期予測（6月24日時点）

品種	調査地点	移植日	出穂期	調査地点	移植日	出穂期	調査地点	移植日	出穂期
		4月15日	7月10日		4月15日	7月13日		4月25日	7月17日
コシヒカリ	安東	4月25日	7月15日	安濃	4月25日	7月17日	白山	5月1日	7月20日
		5月1日	7月18日		5月1日	7月20日		5月15日	7月27日

農薬の適正使用について

中干し完了後、中後期用の除草剤を使用する際には、作付している品種の収穫時期より逆算し、**農薬ラベルの「収穫前〇〇日まで」**に適切に使用するようになしてください。

(例) 4月中下旬植えのコシヒカリを8月中下旬に収穫する場合
農薬ラベルに「収穫45日前まで」の記載→7月初旬までに散布する

今後の水管理

<穂ばらみ期から出穂期にかけての水管理のポイント>

イネの葉鞘（茎の部分）が膨らんでくる穂ばらみ期から出穂期はもっとも水を必要とする時期です。この時期の水は「**花水**」と呼ばれています。

穂ばらみ期の水不足は穎花の不稔率を増加させ、さらに厳しい水不足は白穂の原因にもなります。今年は、昨年よりも雨が時々降り、天水に恵まれてはいますが、みなさんで水の見廻りを行い、豊作を目指しましょう。

熱中症の予防

近年、夏の暑さが厳しくなっています。これからの7月、8月は農作業中に熱中症になるリスクが特に高くなります。令和6年の夏季（5～9月）に田畑等で農作業中に熱中症により救急搬送された方は2322人となりました。

熱中症警戒アラートおよび熱中症特別警戒アラートが発令されている日や、気温が非常に高くなると予想される日には作業を控え、できる限り気温の低い朝方や夕方に外出するようにしましょう。また、こまめな水分と塩分の補給、ファン付きベストを使用するなど、対策を実施してください。